

## 初診患者における非歯原性歯痛症例の臨床的検討

三田市・大槻歯科医院 大槻 榮人<sup>1)2)3)</sup> (歯科医師)

【共同演者】藤田宏人<sup>1,2)</sup> 川上哲司<sup>2)</sup> 川上正良<sup>2)</sup> 大槻麻<sup>1)</sup>

大槻有美<sup>1)</sup> 島田明子<sup>3)</sup> 高橋一也<sup>3)</sup> 桐田忠昭<sup>2)</sup>

- ※ 1) 医療法人社団おおつき会大槻歯科医院、2) 奈良県立医科大学口腔外科学講座  
3) 大阪歯科大学高齢者歯科学講座

### 【目的】

歯科医院を受診する動機の最も多いものは痛みであり、その多くは歯痛である。歯痛には、歯原性歯痛と歯に原因がないにもかかわらず歯痛を発現する非歯原性歯痛があり、その原疾患を特定することは治療に際して重要である。今回、われわれは当院を受診した非歯原性歯痛症例について臨床的検討を行ったので報告する。

### 【対象】

2017年1月1日から同年3月31日まで当院に来院した初診患者606例を対象とし、年齢、性別、主訴、診断名、既往歴、原疾患等について検討した。

### 【結果】

対象患者の平均年齢は44.6歳であり、男女比は1:2であった。診断名は、歯原性歯痛等が504例(83.2%)、非歯原性歯痛と診断された患者は102例(16.8%)であった。非歯原性歯痛症例において、平均年齢は46.7歳であり、男女比は1:3であった。主訴は、歯痛等47例(46.0%)、顎関節痛・咀嚼筋痛19例(18.6%)、既往歴は、「なし」が83例(81.4%)、高血圧症5例(4.9%)、糖尿病3例(2.9%)であり、原疾患は、すべて筋・筋膜性歯痛であった。

### 【結論】

非歯原性歯痛と診断された患者は、主訴が顎関節痛・咀嚼筋痛より歯痛の方が多く認められた。そのため、患者の訴える歯痛に対して的確に診断し、原疾患に応じた治療を行う必要があると考えられた。